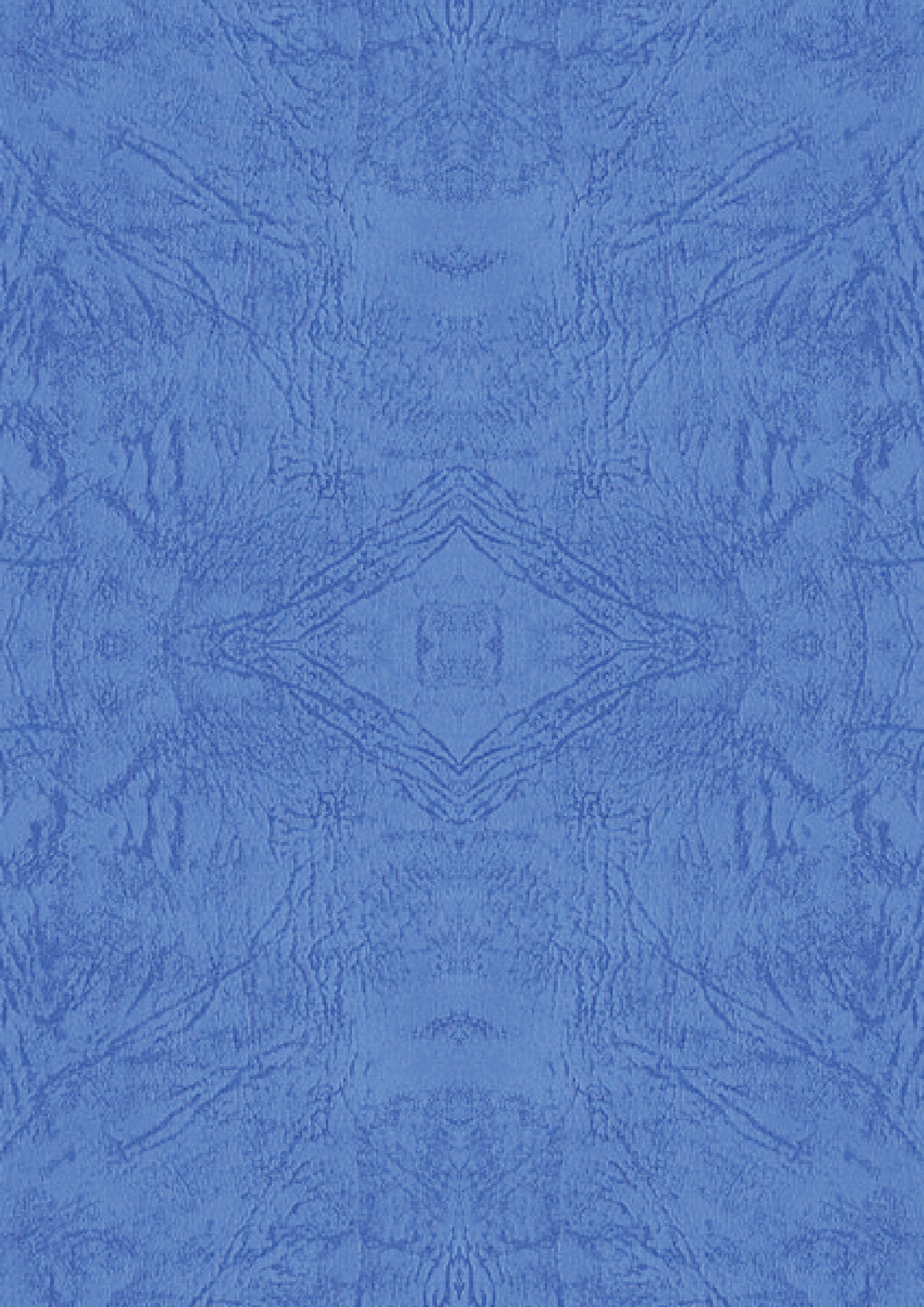


5つの心を育む教育の実践運動
つくし寺子屋 活動報告書

一般社団法人つくし青年会議所



5つの心を育む教育の実践運動

つくし寺子屋 活動報告書



【つくし寺子屋5原則唱和】

- 一. 正直な心を持ち、自分の言動に責任を持つとう。
- 二. 親を大切にし、兄弟とは仲良く、友達とはお互い信じあおう。
- 三. 生きるために、すべてに感謝する心を持つとう。
- 四. 自分で考え計画し、積極的に学び遊ぼう。
- 五. 自分の郷土を愛し誇りを持って、国際人になろう。

5つの心を育む教育の実践運動
つくし寺子屋 活動報告書

◆ 目 次 ◆

はじめに	… 3
設立40周年運動方針	… 4
ご挨拶	… 5
活動報告(2011～2018年度)	… 6
事業検証	…11
地域教育に活かす5つの手法	…14
結びに	…16

◆ はじめに ◆

我々、一般社団法人つくし青年会議所は、1972年の設立時より、筑紫地区(筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川市(※))を活動エリアとして、より良いまちづくり・ひとづくりを目指して運動を展開して参りました。設立40周年を迎えた2011年には、「人は地域の宝！人が人を創り、人がまちを育てる」と提言し、「きょういく(教育・共育・郷育)を基にした人財の育成」という運動方針を標榜すると共に、ひとづくり運動の一環として第1回目のつくし寺子屋事業を開催致しました。以降、活動内容や場所に手を加えつつ「礼節」「自立」「共助」「郷土愛」「感謝」の5つの心を育む教育の実践運動として継続して参りまして、本年度はその7回目となる「つくし寺子屋2018 ～まちの語り部から学ぼう！みんなの輝く未来の為に～」を開催するに至りました。

近年、AI技術が飛躍的に発達を遂げ人間を超える知性の実現が近づきつつあり、本来の人間性の発達を重要視しその真価を問う声上がる中、本年度以降の教科化が物語るように道徳教育は「学校の教育活動全体を通じて行うもの」というあり方に変化が求められています。また、SNSを始めとしたコミュニケーションツールの普及に伴い、容易に周囲の人と接する機会を持てるようになり、子ども達が周囲とやりとりする情報量が飛躍的に増大していますが、その反面、地域コミュニティ内での世代間交流や地域間交流は減少し、対人関係に対する意識は希薄化しています。

つくし青年会議所ではこのような状況に対して、率先して地域の子どもの心の教育を行う役割を担って社会性や倫理道徳観を伝えると共に、子ども達の教育に最も密接に関わる家族と学校教育現場と連携し、日常生活においても継続的にこれを行う環境づくりを進める事が必要であると考えております。その為、今後更なるひとづくり運動の展開を図るべく、これまで行って参りましたつくし寺子屋事業を総括して検証し、見出された成果を発信して地域に還元するものとして、8年間に亘る活動の報告として本書を作成する運びとなりました。

学校・家庭・地域の連携により益々発展し充実していく事が求められる地域教育の関係者の皆様にとって、僭越ではありますが本書が活動の一助となれば幸甚に存じます。

※本報告書内では、活動の行われた時点での表記に従い「筑紫郡那珂川町」と記載している箇所があります。

◆ 設立40周年運動方針 ◆

「きょういく(教育・共育・郷育)」を基にした「人財」の育成

提 言

「人は地域の宝！人が人を創り、人がまちを育てる」

これからつくし地区が更により良い地域となる為に、まずは一人ひとりが自分自身の行いを律し社会の規範や人としての機軸といった道徳心を養い、過去から多くの事を学ぶことで「日本人としての自覚や誇り」を持った「つくし人」としての自覚と責任を持つ事が重要だと考えます。

つくし人のアイデンティティである「相互理解と共生意識」を持った「人財」を育てていく事は、地域や他人に対して思いやりの心を持つ感受性豊かな「人財」や、人間性溢れる生活を送る為の生涯教育を通じて、地域の問題に対して当事者意識を持って関わり、自立と責任を持った行動をする「人財」を育て、地域の宝となる事につながります。

また、家庭と学校と地域の三者が連携し、大人も子どもも教え教わり、共に成長する為に、それぞれの立場で主体的に関わり、外で遊ぶ子どもの減少や体力の低下、幅広い年齢層と一緒に活動する事が少ないといった近年の問題を踏まえ、人格形成や体力の向上を目指します。更に郷土の特色ある歴史や文化、自然を学び郷土愛や誇りを醸成させ、自分達の子どもや孫の世代の為に、地域内の豊かな自然や歴史的遺産を保存継承する事、資源の少ない日本だからこそ、身の回りの生活圏の環境から今後の地球環境まで幅広く学び、省資源社会の実現を目指し、資源の大切さを理解し大事にする心を育てていく事など、様々な「きょういく(教育・共育)」事業を推進していきます。

そして地域や周囲との関わりや地域内の様々な問題に関心を持つ人々、そして新たに関心を持ち、関わるきっかけを掴んだ人々と共に連携し、行政や他団体との関係をさらに親密にしながら、住民目線で物事を考える事でこの地域をより素晴らしい地域にしていくために、共に郷土を育てる「きょういく(郷育)」を行ってまいります。

※本運動方針並びに提言は、2011年につくし青年会議所の設立40周年を機に作成し、発表致しました。

◆ ご挨拶 ◆

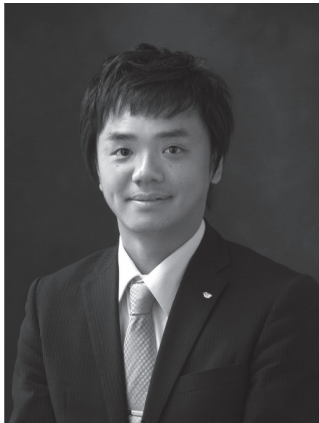


一般社団法人つくし青年会議所
第47代理事長 別府 大輔

1972年につくし青年会議所が設立されてから47年、地域の青年が集い、筑紫地区のより良いまちづくり・ひとづくりを目指し、調査・研究を重ねて議論し、行動に移す一年を繰り返し積み重ねて参りました。20歳から40歳までのメンバーが、青年特有の情熱を活かし、単年度で役職を交代していく事で常に新しい気風を取り込み、組織を若く鋭敏な感性を保っておりますのは青年会議所という団体の特徴であります。しかしながら筑紫地区の発展という大きな目標を見据え、運動・活動が右往左往する事が無いよう、私達は10周年毎に運動方針を定めております。これはその時代の世情、社会的な課題を汲み取り、解決に至るまでの道筋を照らす、私達にとってまさに灯火のような存在です。

このような背景の中で2011年に設立40周年運動方針を発信し、本年度に至るまでの8年間、私達の運動・活動の指針として参りました。地域の中での教育、地域と歩む共育、地域を知り愛する郷育に焦点を当て、まだ見ぬ未来の筑紫地区を担う人財の育成を謳うこの方針は過去7回に亘る「つくし寺子屋」事業に象徴され、実践を重ねる中でつくし青年会議所のひとづくり運動として礼節・自立・共助・郷土愛・感謝という「5つ

の心を育む教育」に結実されています。学校教育が高度化して年々充実していく中、社会性や道徳心といった元来地域のコミュニティーの中で担われていた「心の教育」は世情の変化により半ば取り残されていく事態となり、様々な社会問題の原因とされました。こういった地域の課題に対し、私達なりの解決策としてこの運動に取り組む中、時同じくして多くの同じ想いを持った方々によって様々な社会教育活動が展開される事となりました。子ども達の教育の為に学校・家庭・地域が連携してこれに当たるという運動の広がりは正に私達の願う所であります。この度、活動報告という形でこれまでの運動・活動を検証し、その成果として発信をさせていただきます事がこの地域の子どもの教育をより良いものにする一助となる事を願いまして、私よりの挨拶に代えさせていただきます。



つくし寺子屋
初代塾長 小鳥居 寛貢

2011年、私たちつくし青年会議所(以下、つくしJC)が設立されて40周年という節目の年を迎えた年であります。この年を迎えるにあたり、50周年に向けての運動の指針となる“設立40周年運動方針”「きょういく(教育・共育・郷育)を基にした人財の育成」を作成し、発信致しました。この“設立40周年運動方針”(以下、運動方針)では、「人は地域の宝！人が人を創り、人がまちを育てる」と提言し、「筑紫地区がさらにより良い地域になる為には、まずは一人ひとりが自分自身の行いを律し、社会の模範や人としての機軸といった道徳心を養い、過去から多くの事を学ぶ事で“日本人としての自覚や誇り”を持った“つくし人”としての自覚と責任を持つ事が重要である」という考えのもと、2011年の40周年の年に企画運営された事業が「つくし寺子屋」であります。

この当時の学校教育においては、家庭や地域との関わりが希薄化している事が今の子どもたちの養われる力や育まれる精神性に対して問題視されていた事より、「つくし寺子屋」では郷土の特色ある歴史や文化、自然を地域から学び、郷土愛を醸成する講座内容や、家庭が子どもたちの育成に関わりが持つ事ができるよう講座の日程設定などを工夫して

内容を企画し運営しました。この2011年に「つくし寺子屋」に参加してくれた子どもたちはそろそろ成人する年頃へと成長した訳ですが、私たちのこの運動がどれだけ効果をもたらしたのかは、現段階では未知であります。しかし、この「つくし寺子屋」に参加した子どもたちが将来の筑紫地区の発展に貢献する立派な“つくし人”として活躍する事を心から期待しています。

私たちつくしJCは、将来の“つくし人”の育成として、青少年育成事業を行っていますが、毎年同じとは限りません。それは、時代は徐々に変化を遂げており、子どもたちが生活する環境も変化があります。今後の青少年育成事業の在り方については、筑紫地区に住まう子ども達にとって、様々な変化に対応し、より効果的に“つくし人”の育成ができるかを模索しながら、「きょういく」を行っていきたくと考えておりますので、今後どうぞご協力のほど宜しくお願い致します。

◆ 活動報告 ◆

設立40周年記念事業

つくし寺子屋 ～歴史ある「つくし」から学ぼう！ぼくらの明るい未来のために～

開催日時・場所

入塾式 第1講座	2011年7月24日	於	太宰府天満宮(余香殿・文書館)
第2講座	8月23日	於	グリーンピアなかがわ
	24日	於	同上
第3講座	9月17日	於	奴国の丘歴史資料館・五郎山古墳館他
第4講座	10月 9日	於	大宰府政庁跡・大野城跡他
第5講座	10月29日	於	太宰府天満宮(余香典)
第6講座 卒塾式	11月 5日	於	井口タタミフスマ店・太宰府館
	6日	於	武蔵寺・天拝山歴史自然公園・大観荘

我々つくし青年会議所の設立より40周年を迎えるこの年に、記念事業として開催されたのが第1回となる「つくし寺子屋」事業でした。奇しくも同年発災した東日本大震災からの復興を契機として地域社会の連携が叫ばれるようになる中、その先駆けという形で子ども達が地域の歴史と文化を学び郷土愛を深めると共に、地域を担う「人財」となるべく修練を行う機会として本事業は構築されました。



本事業では筑紫野市・春日市・大野城市・太宰府市・那珂川町の筑紫地区4市1町全域をフィールドとして、足かけ5ヶ月にわたる長期間の活動として実施されました。

史跡の見学や体験活動の中でも塾生としての規律・礼節を重んじて指導を行い、また役割分担や班ごとのプレゼンテーション準備等から子ども達の自主性・助け合いの精神の発達を促し、また職業体験や梅ヶ枝餅づくり・勾玉づくりなど体験学習の場も豊富に用意し、座学で学んだ事を深く理解し吸収できる機会を設けるプログラム構成となりました。

第1回という事もあり、つくし寺子屋5原則、入塾式・卒塾式等、つくし寺子屋事業のひな型となる部分が多く築かれ、第2回以降に踏襲されていきました。しかしながらこの事業の根の部分を残しつつ、毎年様々な活動や取り組みを取り入れつくし寺子屋事業は社会教育のケーススタディとして大きな広がりを見せていく事となります。



◆ 活動報告 ◆

第2回つくし寺子屋 ～歴史ある「つくし」から学ぼう！ぼくらの明るい未来のために～

開催日時・場所

入塾式 第1講座	2012年8月21日	於 太宰府天満宮(余香殿・紫藤館)・戒壇院
	8月22日	於 太宰府天満宮
第2講座	9月16日	於 奴国の丘歴史資料館・五郎山古墳館他
第3講座	9月30日	於 大宰府政庁跡・大野城跡・他
第4講座	10月21日	於 太宰府天満宮(余香殿)
第5講座 卒塾式	11月10日	於 大観荘
	11月11日	於 大観荘・武蔵寺・天拝山歴史自然公園

記念事業の継続として開催された第2回つくし寺子屋では、第1回と同じく史跡の見学や座学講座、体験講座を中心とした活動となりました。

また地域学習の新しい手法としてつくし青年会議所にて「つくし郷土かるた」を制作し、本事業に取り入れたのは特筆すべき点です。かるた自体の説明から地域の歴史や文化を学ぶだけでなく、事業内でかるた大会を実施する等の取組みが行われました。



つくし郷土かるた

太宰府天満宮や裂田の溝、須玖岡本遺跡等の史跡から九州国立博物館といった文化施設を題材とし、郷土の歴史と文化を楽しく遊びながら学べるツールとしてつくし青年会議所の手で制作されました。

全回を通してつくし寺子屋事業の中でプログラムとして使用されている他、2016年には筑紫地区の郷土の魅力を楽しみつつ、コミュニケーションや感情のコントロールといった非認知能力の発達にも役立つツールとして地域の幼稚園・保育所に配布。また同年より九州国立博物館を愛する会によるつくし郷土かるたを使用した「小学校対抗かるた大会」が開催される等、継続的に利用されています。



◆ 活動報告 ◆

第3回つくし寺子屋 ～歴史ある「つくし」から学ぼう！ぼくらの明るい未来のために～

開催日時・場所

事業説明会 入塾式	2013年7月28日	於	太宰府天満宮(余香殿 文書館)
第1講座	8月25日	於	初音旅館・グリーンピアなかがわ
第2講座	8月26日	於	太宰府天満宮・竈門神社・太宰府館
第3講座	9月 7日	於	大観荘
第4講座 卒塾式	9月 8日	於	大観荘・武蔵寺・天拝山歴史自然公園

第3回では野外体験活動を多く取り入れ参加者から好評を博しました。糸島での地引網体験に始まり、農業収穫体験とその食材を用いての調理体験等、食育等の学習効果も期待してのプログラム構成となりました。

また太宰府周辺や天拝山歴史自然公園の散策、木うそづくり体験といった郷土の歴史や文化を学ぶ講座も行われました。



第4回つくし寺子屋 ～歴史ある「つくし」から学ぼう！ぼくらの明るい未来のために～

開催日時・場所

事業説明会 入塾式	2014年6月22日	於	太宰府天満宮(余香殿 文書館)
第1講座	7月 6日	於	太宰府天満宮・太宰府アスレチック公園
第2講座	7月26日	於	グリーンピアなかがわ
第3講座	8月 3日	於	太宰府天満宮(余香殿 文書館)
第4講座	8月24日	於	太宰府天満宮(余香殿 文書館)

各講座での教育プログラムを重点的に練られた第4回では、辞書引き学習法を始めとした座学講義の他、タグラグビーやものづくり体験、茶道といった体験学習も織り交ぜ学習効果の高い構成をもって執り行われました。

また全回を通して唯一国際交流の機会を創出し、日本人としての心を育む教育との相乗効果を発揮したのも特筆すべき点に挙げられます。



◆ 活動報告 ◆

第5回つくし寺子屋 ～歴史ある「つくし」から学ぼう！ぼくらの明るい未来のために～

開催日時・場所

事業説明会 入塾式	2015年7月26日	於	太宰府天満宮(余香殿 文書館)
第1講座	8月20日	於	糸島市・グリーンピアなかがわ
第2講座	8月21日	於	大刀洗平和祈念館・天拝山
第3講座 卒塾式	8月22日	於	九州国立博物館 太宰府天満宮(余香殿 文書館)

2泊3日の短期間開催となった第5回では体験学習に重きを置き、フォレストアドベンチャー糸島での自然の中でのアスレチック体験により、非日常を感じながら仲間と助け合う経験を得る事から始まりました。

第2講座では天拝山登山・大刀洗平和祈念館の見学を行う中で地域の歴史を学び、地域の担い手となる意識を芽生えさせる事となりました。



第6回つくし寺子屋 ～最高の夢を描くための3日間～

開催日時・場所

事業説明会 入塾式	2017年7月30日	於	太宰府天満宮(余香殿 文書館)
第1講座	8月19日	於	金剛宝寺(大分県)
第2講座	8月20日	於	久住山
第3講座 卒塾式	9月2日	於	大観荘

第6回つくし寺子屋では史上初の県外進出を果たしました。第1講座では金剛宝寺のご住職のご案内により水行体験・座禅体験等を行い、生活利便性に優れた筑紫地区では得られない経験をしました。またこれまでと違った「成長ノート」により体験やその感想を仲間達と共有する事で自身を見つめ直す事も新しい取り組みとして行われました。

最終日には自分達の夢とまちの未来像をつなぐ「ドリームマップ」を作成しました。



◆ 活動報告 ◆

つくし寺子屋2018 ～まちの語り部から学ぼう！みんなの輝く未来の為に～

開催日時・場所

事業説明会 入塾式	2018年7月 1日	於	太宰府天満宮(余香殿)
事前研修会	7月14日	於	博多南駅前ビル
第1講座	7月27日	於	宗像大社・むなかた館・玄海の家
第2講座	7月28日	於	大島・太宰府天満宮(余香殿)
第3講座 卒塾式	7月29日	於	太宰府天満宮・太宰府市総合体育館

2018年度に行われた7回目の事業では、地域内外でまちづくりの第一線で活躍されている方(＝語り部)のお話に触れる事を主題とし、那珂川町の博多南駅前ビルを中心とした地域の発展の歴史と、前年度に世界文化遺産に登録された宗像の史跡群に関わる推進運動を題材としました。



筑紫郡那珂川町の博多南駅前ビルで開催した事前研修会では、同ビルを中心に活動されている「博多南駅前を考える会」会長春田智明氏より、駅周辺の発展の歴史、博多駅から車両基地に移送される新幹線に乗車できるように声を上げた地域の力、また近く行われる同町の市制施行とその後のヴィジョンについてお話を頂きました。

また第1講座では宗像・沖ノ島世界遺産市民の会で事務局長を務められている堀建治氏の講演を伺い、反対の声が渦巻く中で世界遺産登録推進運動の黎明期、数多の歳月と障害を乗り越えた登録までの道のり、そして市民の関わり方について学びました。講義の後には必ずディスカッションを重ねる事で「自分達がまちづくりの一端を担う」という意識を常に育み、塾生達は郷土に対する想いを募らせる事となりました。

第2・3講座では宗像の大島での海洋漂着物の清掃活動や武道体験といった体験学習を主に行い、座学との相乗効果で学びを深めました。

最終日にはそれぞれのグループで手法を定めてまちの未来を変えるアイデアを検討し、「そこで誰が喜び、そこに自分達がどういった関わり方ができるのか」を詳しくつきつめて考え、地域の「未来予想図」として卒塾式の会場で保護者の皆様の前で発表を行いました。



◆ 事業検証 ◆

「つくし寺子屋」はつくし青年会議所の設立40周年運動方針に基づくひとづくり運動の一環として、その実践・検証の場として実施されました。

つくし青年会議所のひとづくり運動

設立40周年運動方針(2011年)
『「きょういく(教育・共育・郷育)」を基にした「人財」の育成』

…「日本人としての自覚や誇り」を持った「つくし人」の育成により、思いやりの心や市民としての当事者意識をもつ人財が増え、筑紫地区をよりよい地域へ発展させる。

実践的
手法

5つの心を育む教育

倫理観・社会道徳心を養う為に、
次の5つの心を特に育む教育手法

礼節の心

目上の方を敬い、周囲の人と調和し、
誰に対しても教わる姿勢を持つ

自立の心

自分の立場・責任を自覚し、自分の
考えをもって目標に向けて行動する

共助の心

お互いの長所・短所を認め合い、思い
やりを持って助け合い、力を合わせる

郷土愛の心

自分の住んでいる地域の知識を持ち、
誇りをもって人に伝え、貢献していく

感謝の心

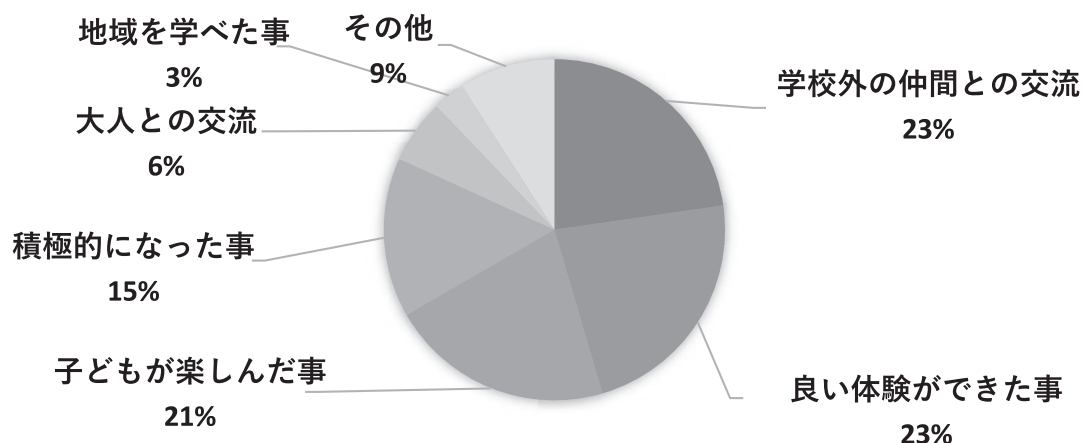
驕らず、助けを受けている事を認識し、
さらに有難さを返していこうとする

つくし寺子屋事業内で行われた各プログラムは、参加者に上記の5つの心の成長に繋がる事を念頭に計画・実施されてきました。中でもこの地域で活動する青年会議所として特に郷土愛の醸成には力を入れ、筑紫地区の歴史や地域の特徴を知る活動(座学講座や体験活動)を通じて、またそれを各市町の小学校から集まった子ども達が普段の生活圏を超えて交流しつつ行う事で各回のつくし寺子屋を、地域教育を牽引する事業とすべく努めて参りました。

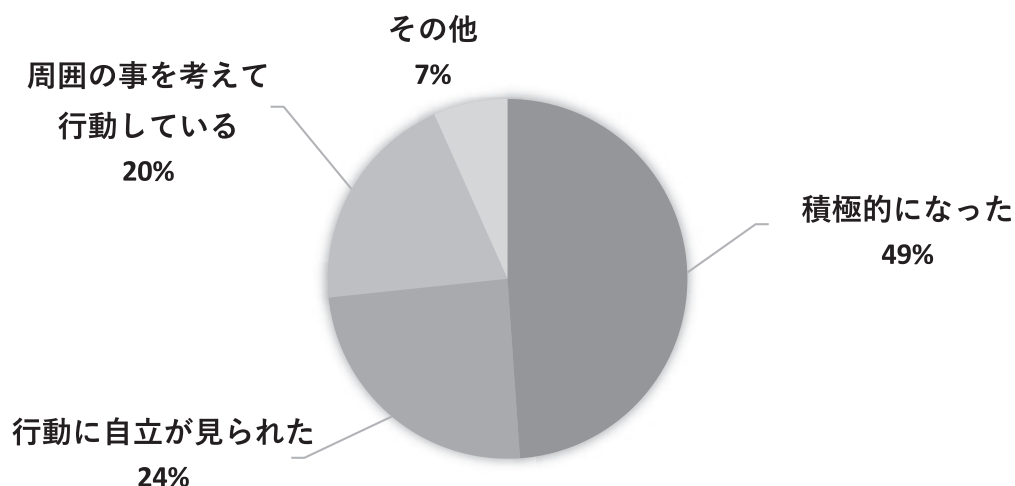
次ページにそのような活動の効果検証の為につくし寺子屋2018の参加者・保護者にご回答いただいたアンケートの集計結果を掲載致します。

つくし寺子屋 保護者アンケート集計結果

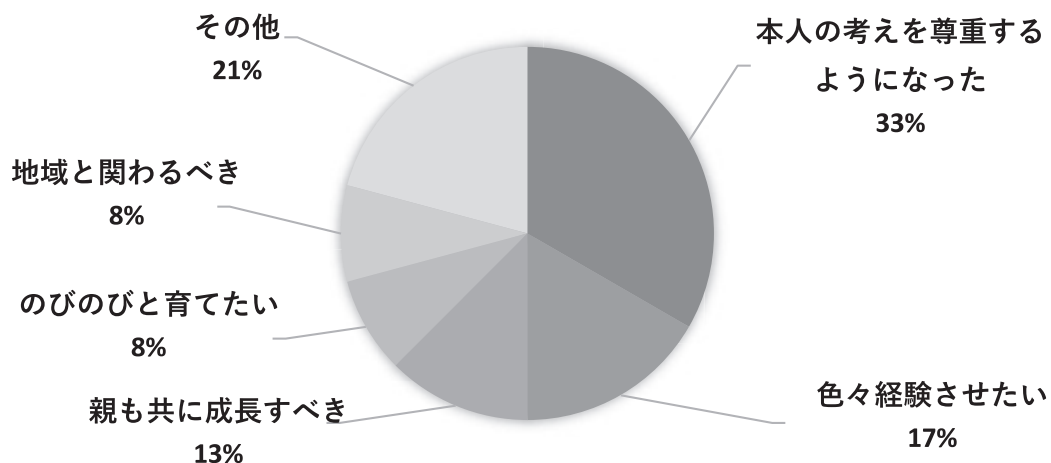
□お子様がつくし寺子屋に参加して良かった点はなんですか？



□つくし寺子屋に参加した事で、お子様が以前よりも変わったところがありますか？



□お子様がつくし寺子屋に参加した事で、教育に対する意識が変わりましたか？



つくし寺子屋 アンケート集計結果（つくし寺子屋2018）

参加者（筑紫地区内在住の小学4・5・6年生 42名）	「はい」の回答率
<input type="checkbox"/> 自分の住んでいるまち、そこで暮らす仲間の見え方は変わりましたか？	… 59%
<input type="checkbox"/> 自分達がまちをより良くする一員なんだと思えましたか？	… 41%
<input type="checkbox"/> 初めて見る事、知る事によって、より深く学ぼうという気持ちになりましたか？	… 93%
<input type="checkbox"/> これから身近なところでも役割を果たして、周りのひとに気づかう事ができますか？	… 63%
<input type="checkbox"/> つくし寺子屋2018でみんなが学んだ事を、家族や友達等の身近なひとに伝えていってくれますか？	… 96%

保護者

<input type="checkbox"/> つくし寺子屋2018に参加した事がお子様の成長に繋がったと思われますか？	… 96%
<input type="checkbox"/> つくし寺子屋2018に参加されて、お子様が目に見えて変わった（成長した）所はありましたか？	… 77%
<input type="checkbox"/> お子様が地域を学ぶ事には、こういったメリットがあると思われますか？	
1. 対人関係、社会経験が得られる	… 88%
2. 役割を果たす責任感を持つようになる	… 65%
3. 地域の問題に当事者意識を持つようになり、積極的に行動するようになる	… 73%
4. 自分に関わる事のルーツを知る事で、アイデンティティの形成に役立つ	… 23%
5. 地域の内外を知る事で視野が広がり、今後の進路の選択肢が増える	… 65%
<input type="checkbox"/> お子様が地域を学び、積極的に関わっていきこうとした時、ご自身もそれに協力していこうと思われますか？	… 88%
<input type="checkbox"/> 周囲の方々と協調して、あるいはその協力の仕方を伝える事によって、子ども達の成長を地域の中で連携して見守っていく事ができると思われますか？	… 85%

総評

これまでのつくし寺子屋を通した検証結果として保護者の方々に評価されたのは、体験活動や初めて会う人達とのコミュニケーションによって自立心や積極性が育まれたという点で、家庭での教育に対する意識も本事業を機として同様の方向性を向く結果となりました。

またつくし寺子屋2018の参加者からの回答としては好奇心や成長意欲を刺激されたという傾向が強く、地域への関わりに強い興味を示す参加者がいる一方で、全体としては地域の一員としての自覚が目覚めたという点では薄い反響となっております。保護者の方々には地域教育の必要性を感じて頂けたようで概ね高い結果を示しており、今後の参画につながるものと考えられます。

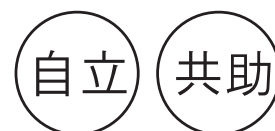
総評として、より効果の高い教育環境を目指していく為には、地域教育の機会を短期日程の事業のみならず日常的に継続する必要性が感じられます。

◆ 地域教育に活かす5つの手法 ◆

核家族化や少子化の進行から世代間交流・地域内交流が薄れた時代の中、現在の子ども達の地域教育の環境は急速に進展しつつあるように見えます。この基盤にあるのは平成18年の教育基本法改正により第13条に定められた通り、学校、家庭、地域がそれぞれの責任をもって連携する事に関わる皆様の不断の努力の賜物であると思われます。しかしながらその三者にあっても実働する人間が年月と共に入れ替わり、関係性やノウハウの継承が損なわれる事が活動の障害となる場合が多くあるという声も聞かれます。

我々つくし青年会議所は、これまで取り組んできた「5つの心を育む教育」の活動の蓄積により実証された5つの手法を、そういった地域教育の現場を充実させる効果を持つものとして提案致します。

① 子ども達自身に役割を任せる



すべてを大人が用意して指図してしまっは、子ども達はサービスを受ける姿勢が身についてしまいます。活動をスムーズに行う為には大きな枠組みを用意する必要がありますが、子ども達自身が考え、自分なりのペースで責任感と当事者意識持つて役割を果たすのを見守る事で、自主性が身に付きます。

活動例) キャンプや、大型展示物の作製

② 地域の人財と世代間交流を行う



かつて三世同居が当たり前だった時代には、それぞれの世代がそれぞれの立場から子ども達と向き合い、時に見守り、時に叱って育てていたと思います。現代ではなかなか家庭で担えなくなったそういった局面は、地域の年長者が関わる事で子ども達の成長に大きく影響します。

活動例) 老健施設の訪問・レクリエーション

③ 他の地域の子も達と地域間で交流する

共助

郷土愛

子ども達や若者の中でSNSが流行する中、コミュニケーションそのものの量は増えている傾向にあります。しかし狭いコミュニティの中で容易に行われる通信に甘えていては子ども達の社会性やコミュニケーション能力を伸ばす障害になりかねません。

慣れない相手と交流する事でそういった能力の成長を促すだけでなく、地域をより広く認識する事が出来るのではないかと考えます。

活動例)環境の異なる近隣の小学校との合同事業

④ 地域の歴史を学び、地域との関わり方を考える

共助

郷土愛

昨今の住宅事情では必ずしもその地域にルーツを持っているとは限りませんが、それでも尚、子ども達にとっては今住んでいるまちが世界の中心と捉えられている傾向があります。その歴史を学ぶ事は成長期のアイデンティティ形成に大きな影響を及ぼしますし、また更に踏み込んでその地域の中にある自分の存在や持つべき責任を考える事は、社会性や倫理道徳観を育む上で必須なものとなります。

活動例)地域の史跡や公共施設の見学ツアー

⑤ 地域の外を見て、自分達のまちを意識する

自立

郷土愛

感謝

日本人が国際の場で自国の文化を説明する事を苦手としている現状から、ビジネスパーソンの間でも日本文化の再学習が行われています。一方で、昔から「かわいい子には旅をさせよ」というように、自我を意識して成長する為には他人を知る事が最も効果的です。

活動例)遠方の地域との交換留学事業

◆ 結びに ◆

本年度までの7回に亘る「つくし寺子屋」事業におきまして合計250名を超える塾生達を送り出して参りました。各回には塾生達の成長を目的とした様々な活動を行って参りましたが、私達の標榜する「5つの心を育む教育」はたった数日間の指導で成り立つものではありません。本事業をきっかけとして子ども達自身が歩みを進められるようになる事、そしていずれ地域を愛し導く「つくし人」となってくれる事を到達点と見据え、事業構築に努めたものとなります。その為にはまずそういった子ども達の成長する姿を見守り慈しむ地域の人間の輪を広げていく事が必要となり、私達つくし青年会議所が行ってきた、そしてこれから行われる運動・活動の重要な命題となります。

2006年に改正された教育基本法第13条に端を発し、学校・家庭・地域を始めとした大人の「連携」が叫ばれて久しく、この筑紫地区内外でも社会教育・地域教育がそれぞれの地域の事情、関係者の想いの中で形作られ、様々な素晴らしい取り組みが行われています。しかしながら現状、こういった取り組みが地域の多くの大人によって支えられているかという点には疑問が残り、核家族化・少子化・共働き家庭の増加といった社会の状況を背景として一部の積極的な参画者に限られた「連携」であるように見受けられます。この打開策として活動への参加を強いるような事があれば、徒に参画者と不参画者の対立関係を煽りかえって逆効果になる事は関係者諸氏の共通の体験かもしれません。ひとつの光明となるのは、まず「教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚する」事となり、活動の多寡に捉われずより細かくそれぞれの置かれた立場を設定し、相互にこれを理解し支え合える地域、そしてその上での広く緩やかな連携が保たれる地域となる事ではないかと考えられます。

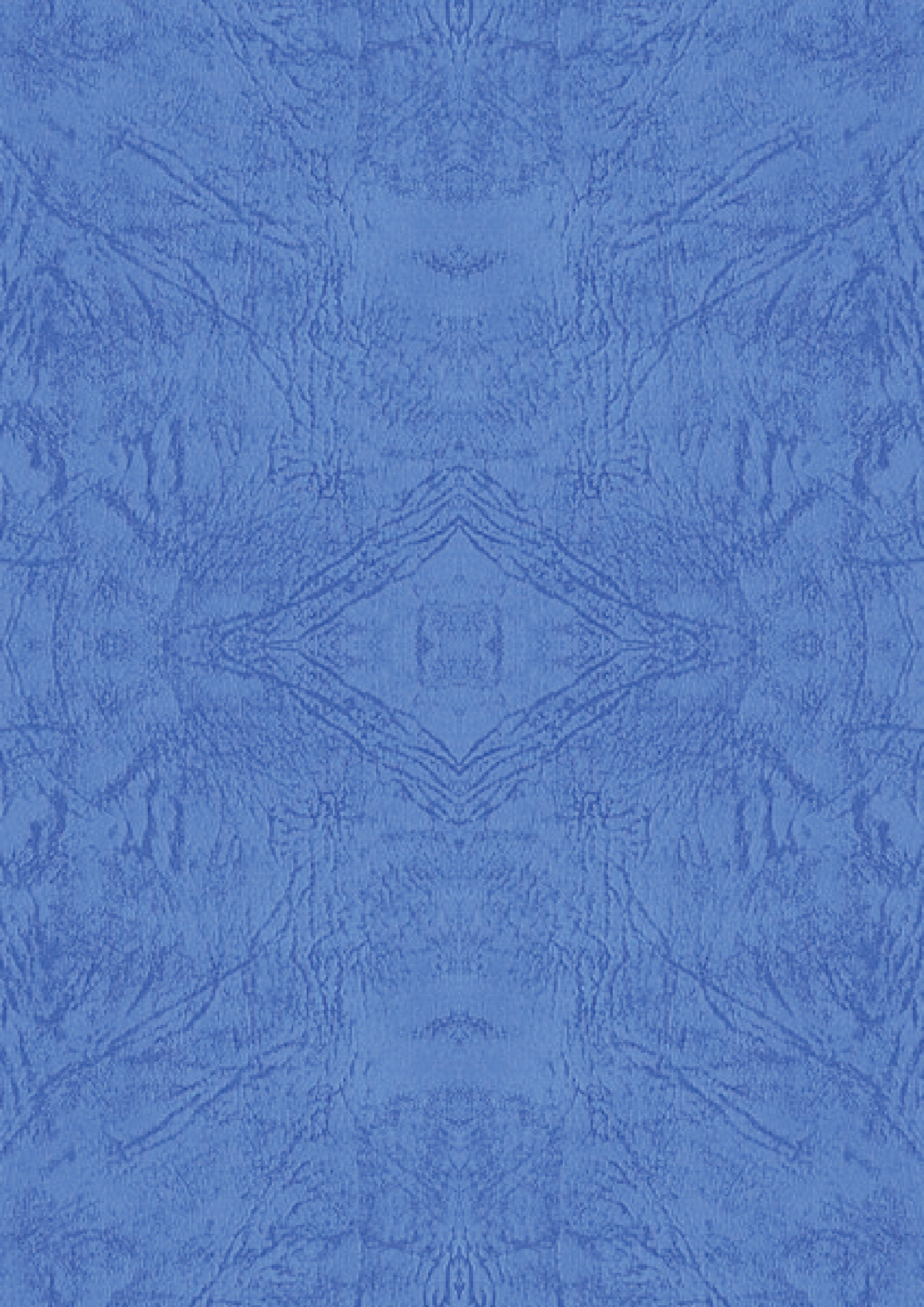
本報告書が契機となり、筑紫地区内外の関係者が協働してこういった形での社会教育・地域教育の拡大に取り組む事により、子ども達にとって教育を受けるのにより良い地域となります事を願ひまして、結びとさせていただきます。

【5つの心を育む教育の実践運動 つくし寺子屋 活動報告書】

発行：2018年10月1日

編集：一般社団法人つくし青年会議所

未来を担う人財育成委員会 委員長 黒崎 直樹





一般社団法人

つくし青年会議所

〒818-0058 筑紫野市湯町 3 丁目 2 番 5 号
筑紫野市商工会館内

TEL (092)924-8338

FAX (092)921-2906